

令和5年度 大和高田市立高田商業高等学校 学校評価 総括表

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校経営方針	○基礎・基本的な学力・生活習慣を身につけさせると共に、健康に留意し、人権を尊重できる生徒を育てる。 ○国際的視野を備え、協調性に富み、進取の気性を持って時代の変化に柔軟に対応できる生徒を育成する。		B	
年度重点目標	具体的目標			
・学習指導の充実 ・生徒指導の充実 ・人権教育の充実 ・進路指導の充実 ・資格取得指導の推進 ・部活動の活性化 ・学校、家庭、地域の連携と協働 ・学校の安全	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な学力の定着を図るとともに、課題発見及び課題解決能力、コミュニケーション能力と自己有用感を育成する。 ・基本的生活習慣の確立を図り、社会の一員としての自覚を深め、自らの行動に責任を持ち、自己を生かす能力を育てる。 ・適正なSNSの利用など、人権意識の向上を図るとともに、いじめの早期発見、早期対応に心がけ、きめ細かい指導に努める。 ・自らの生き方を考え、社会的、職業的に自立ができるように計画を立案し、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。 ・上級資格の取得や英語検定に向けた取り組みの、充実を図る。 ・「部活動に係る活動方針」に則り、部活動の充実・活性化により、心身両面の成長と知・徳・体のバランスの取れた人間力を育成する。 ・保護者との連絡を強化し、開かれた学校として、情報発信を積極的に行い、地域との連携を一層充実させる。 ・施設・設備の安全管理や通学路の安全点検を実施し、事件・事故防止に万全を期すとともに、危機管理意識の高揚を高める。 			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立し、忍耐力を身につけて、意欲的な学校生活を送らせる。	積極的な部活動の参加、また規則正しい生活を送らせ、年間の皆出席者が多く、欠席総数を少なくしていく。	B	欠席減を目指す、個人で多く欠席しているのが見られるので、一人一人対話を重ね、コミュニケーションをはかる。 早い段階から進路を意識させ、小論文や志望動機への関心を高める。 修学旅行や学校行事に積極的に参加し、充実した学校生活を送れるように取り組む。
		ホームルーム等で人間関係の構築に向けた取り組みを行い、自らルールやマナーを守れるようにする。	A	
		BYODの導入に伴い、正しい利用と有効的な活用ができるように指導する。	A	
	基礎を大切に、学習の習慣を身につけて、自己の進路につなげられるようにする。	落ち着きをもって学習できる環境を作り、学習する意欲と習慣を身につけ、教室の美化に努める。 検定取得への意欲を高め主体的に取り組み、内容の理解に努める。 早い段階で自己の進路を意識させ、自立心をもって目標に向けて学習に取り組めるように指導する。	A B B	
第2学年	中堅学年として、自覚をもたせ、規範意識を身につけさせ充実した学校生活を送れるように粘り強く指導する。	規則正しい生活習慣を身につけさせ、年間の遅刻、欠席の総数を減らすことを目標にする。	B	就職や進学の際、推薦で進路保障されていることを理解させ、欠席を含めて学校生活全般にしっかりと取り組むように自覚をもたせる。また、生徒・保護者と対話を重ね、コミュニケーションをはかる。 B 進路実現のために自ら動き、自ら考えさせ、明確な目標をもたせる。また、学習や進路実現に向けて主体性をもって積極的に取り組めるように促す。 最終学年として、「人としての成長」を期待しアプローチする。
		充実した学校生活を送るために、学校行事やHR活動に積極的に取り組みさせ、計画的に進むようにリーダーシップの育成を図る。	A	
	計画を入念に行い、修学旅行を成功させる。	安全に実施できるように計画を立て、生徒が中心となって企画し、怪我や病気のないように注意し、充実した修学旅行にする。	A	
	早い段階で進路希望をもたせ、進路実現を意識し、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。各種上級検定取得を目標に日々の授業に取り組ませる。	日商簿記検定2級やステップ英検2級、ITパスポートなどの上級検定を取得させるために各種検定科目の補習や個別指導等を学年としてサポートする。 進路目標を明確に設定させ、それに向けて自分自身で取り組むべき課題を見つけさせ実践させる。 自主的に学習に取り組む姿勢を養う。	A B B	
第3学年	進路実現に向けて計画的に準備させ自主的に取り組ませる。	担任・副担任・進路指導部が連携して、生徒の進路実現のために尽力し、次のステージで活躍できるように、自ら考え、行動し問題解決できるように指導する。	A	A 多様化する受験形態に対応するため、1年から学力向上と検定取得の両立、活動経験を積ませることを意識して指導する。 進路実現との両立を図るため、早期から計画や役割分担などが必要とされる。本年度は担任と副担の連携でスムーズに行われた。 コロナの影響で例年に比べると欠席する生徒が多かったように思える。進路指導を通じて、礼儀正しさなどは身についた。
	最高学年として部活動や行事でリーダーシップが取れるように指導する。	最後の学校行事が思い出に残るようにリーダーシップを発揮させ、計画的に進められるように取り組ませる。	A	
	基本的生活習慣と社会人としてのマナーを身につけさせる。	規則正しい生活習慣を意識させ、欠席や遅刻、早退を極力少なくし自己の体調管理ができる資質を身につけさせる。	C	

		礼儀正しく、元氣よく立ち振る舞えるように指導する。	B				
教務	特色ある学校を目指し、 教科学習の学力充実と指導力の向上に努める。	ICT機器を効果的に活用し、主体的、対話的で深い学びの推進とともに、個人所有の情報機器の取扱いのルールをつくる。	B	B	B	ICT機器を効果的に活用し、主体的、対話的で深い学びの推進に向け、また指導力向上に向けて公開授業を行う。	
		観点別評価が指導と評価の一体化となるように取り組む。	B			家庭学習の習慣をつけるための取り組みを行う。	
		家庭学習の習慣をつけるための取り組みを行う。	B			校務支援システムを利用し、事務処理負担が軽減されるように取り組む。	
	教育活動の円滑な推進に取り組む。	職員会議のペーパーレス化に取り組む。	A	B		Web出願に向けての準備に取り組む。	
		校務支援システムを利用し、事務処理負担が軽減されるように取り組む。	B				
生徒指導	規範意識の醸成を目指すし、 規律ある高校生活を確立させる。	コロナに対する基準も見直しが行われるため、欠席に対する意識を高めさせるとともに、引き続き感染予防対策を徹底し体調管理に努める。	C	B	B	コロナの影響から欠席に対する意識の低下が見られた。引き続き感染予防対策を徹底し体調管理に努めるとともに欠席しない呼びかけをしていきたい。	
		登下校時の通学マナーの向上に努める。	B			年度当初に生徒に対し通学路の確認を行う必要がある。	
		SNSに関する問題行動の減少に努めるとともに規範意識の向上を目指す。	B			引き続きSNSに関する規範意識の向上を目指す取り組みを行っていく必要がある。	
	特別活動の充実を図る。	LHRの充実を図る。	C	B		われら人間創造を活用できるLHRの時間を確保する。	
		部活動に対して高い意識を持たせ、高い目標を持って活動する生徒を育成し、全国大会、近畿大会出場、入賞を目指して取り組む。	A			高い目標を持って、全国大会、近畿大会出場、入賞を目指して取り組ませる。	
	道徳教育の充実を図る。	いじめをなくし、思いやりのある生徒を育成する。	C	C		いじめをなくし、豊かな人間性を目指すとともに思いやりのある生徒を育成する。	
	ボランティアの充実を図る。	ボランティア活動への参加を呼び掛けること、ボランティア精神を養わせる取り組みを行う。	A	A		引き続きボランティア活動への参加を呼び掛け、ボランティア精神を養わせる取り組みを行う。	
	安全教育の推進を図る。	防災・防犯意識を高めさせ、危機管理意識の醸成に努めさせる。	B	B		さまざまな災害が起これることを意識させ、防災・防犯意識を高めさせる。	
校内や通学路の美化に努める。	校内清掃を徹底させ、校内美化に努める。 校内の緑化を充実させる。	C	C	ゴミ処理の徹底を行い、校内美化に努める。 校内の緑化を充実させる。			
校則の見直しや制服の変更を行う。	今の時代に見合った校則の見直しや制服の変更を行う。	A	A				
進路指導	生徒の実態と希望に応じた進路指導の実現を目指す。	4年制大学進学希望者の内、国公立大学及び難関私立大学の合格者を40名、中堅私立大学以上の合格率を75%以上を目指す。	A	A	B	就職、進学ともしっかり指導し、おおむね良好な結果を残すことができた。ただし、教員の個人的な献身によることも大きく、働き方改革を考えると今のままの受験指導を長く続けることは難しい。組織としての目標と各自の仕量の再設定が喫緊の課題である。	
		希望する職種確保、優良就職先の継続、卒業生の離職の減少のため、積極的に企業訪問を行い早期に就職決定率100%を目指す。	A				
	積極的な進路情報の提供。	全職員の共通理解と組織的かつ計画的な取組を目指し、情報を共有し、組織として小論文や面接等の指導に取り組む。	B	B		B	情報を取りに行く人間に限られていて、多くの情報を集める、という点に関してはもう一歩である。各自の主体性に頼らず、公平な分担を模索し、より多くの情報を集める。
		企業および大学訪問を積極的に推進し、生徒が進路を選択しやすい情報を収集してデータの共有できる体制を構築する。	B				
		高田商業を希望する層に進路実績等を積極的に提供し、選ばれやすい高校を目指す足がかりを作る。	B				
キャリア教育の推進。	早期から進路に対する関心や意識を持たせ、様々な活動を通して、生徒一人一人に応じた指導を行い、しっかりとした勤労観や職業観を養う。	B	B	B	進学、特に難関大学の合格だけにフォーカスせずに、多くの進路についての知見を高める。企業見学や専門学校の見学にも参加する機会を作る。		
	学内外との関わりを多く持ち、生徒に適切なアドバイスができ、キャリアをファシリテートできるよう教員が研鑽に励む。	C					
図書館の利用や貸出冊数を増加させ、読書週間を身につけ、図書館活動の充実を図る。	図書委員会を中心に充実した活動を継続する。図書館利用を促進し、図書貸出冊数年間150冊を目指す。また、自習室としての機能を充実させ、図書館利用者数の増加を目指す。	B	B	図書館活動を計画的に行い、充実したものにする。また図書館来館数・利用者の増加を目指す。自習室としての機能も充実させ、十分に生かす活動を行う。			
	文化活動を活性化し、活発化させる。	部活動の目標を高くし、近畿・全国大会出場数20名以上や上位入賞を目標に積極的に活動する。新入部員を確保し、部員数を増加させる。	A	A	高い目標に向かって活動を活発に行う。具体的に全国大会出場数を20名以上を目標とする。また、活動内容を精査し、部員を確実に確保、活発な部活動の内容を目指す。		

文化厚生	文化的行事を充実させ、意義のある内容にする。	舞台発表のレベルを向上させ、見応えのある舞台にすることを目標に活動する。企画・準備・片付け等をスムーズに行う。	A	B	高いレベルの舞台発表を目指す。また、舞台練習時間等を見直し、スムーズな進行に努める。 年度当初の早い時期から計画し、企画・準備・運営がスムーズに行くようにする。また、販売品目・方法を創意工夫し、食品衛生や食中毒等の防止に配慮し、安全なイベントを目指す。
		計画的に企画・運営を行い、文化委員の役割や自覚を促し活発な活動を目指す。また、販売品目や販売方法を創意・工夫し、クオリティの高い文化祭を目指す。	B		
	広報活動を積極的に行い、成果を上げる活動を行う。	学校新聞や学校パンフレットの内容を精選し、積極的な広報活動を効果的に行うことを目指す。	B	B	
保健体育	体力向上を目指した授業に取り組む	スポーツテストでA判定を160名以上目指す。	B	B	スポーツテストでのA判定が140名と目標に届かなかった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で体力の低下して入学してくる生徒が多く、対応が今後の課題である。 外部講師を活用したがん教育を実施することができた。感染症はコロナウイルスが5類に変更される中、インフルエンザが蔓延するなど、来年度の課題となった。 全国大会や近畿大会の出場選手が231名と多くの生徒が活躍してくれた。近畿大会や全国大会への出場こそ逃したものの、県で常に上位進出するなど多くの部活動が活躍してくれた。
		スポーツを通じて心身共に鍛え、怪我の防止に努める。	B		
		安全にスポーツが行えるように環境整備に取り組む。	B		
	健康教育の推進	健康意識を高め、感染症の予防に努める。	B	B	
外部講師を活用したがん教育の実施	A				
学校保健委員会に向け、資料や情報を整理し、健康への意識を高める。	B				
部活動を通じてバランスのとれた生徒の育成	全国大会や近畿大会の出場選手を延べ200人以上目指す。	A	A		
学校生活と競技力の向上にバランスよく取り組ませる。	B				
人権教育	一人ひとりのつながりを大事にして、命を大切に する。	プリント資料・DVD等を提供して、最近の諸問題に対応した話し合いのHRの充実を図る	B	B	校内にあるDVD教材は内容や画像が古すぎて活用できず、動画教材についてのすべてはインターネットにあげられている動画を活用した。 SCについては希望者が増加傾向にあるにもかかわらず、週2回しか相談日が設定できていないので、週4回の実施を目指したい。 本年度は、県立盲学校より講師の先生を招き、障がい者理解の研修を実施できた。生徒のアンケートからもどこまでの手助けが必要なのか、どのような声掛けをしたらよいのかなどが参考になったと前向きな意見が多く見られ、良い研修となった。
		各種アンケート（いじめ・情報機器）を通して実態把握と共に、早期発見・対応に努める。	A		
		いじめ件数の0を目指す。	C		
		教育相談活動の充実を図ると共に、スクールカウンセラーや養護教諭と連携を密にして生徒の実態把握に努める。	B		
	一人ひとりの違いを個性や豊かさにとらえ、違いを認め合えるなかま作りを行う。	各種交流会やボランティア活動への自主的・自発的な参加を促し、HR等で発信する。	C	B	
		「なかまだより」の内容を、保護者がより関心を持ち読んでいただけるようにする。	C		
職員研修の年1回実施や各種研修会への積極的な参加を要請し、実践力の向上に努めていただく。	A				
商業科	上級資格検定の取得を目指す。	全商1級3種目以上の取得者190名以上と4種目・5種目以上の取得者を増やす。	A	B	2年生での検定取得に向けた取り組みの充実を目指す。生徒が高い目標を設定し、学習活動を通じ達成感を得ることを目指す。上級資格について詳しく伝え、取得に向けて取り組む。 ビジネスコンテストなどに積極的に参加するように促す。 イベントが開催されれば、地域や協力企業との共同開発に取り組む。
		学習指導要領改定にともなう検定試験の出題範囲変更に対応し、検定取得に向けた補習を計画的に取り組む。	A		
		日商簿記・ITパスポートの受検を促し、合格者を増やす。	B		
	地域との連携の強化に努める。	外部と連携して取り組みができるように、情報を収集し、積極的な参加を促すように努める。	B	B	
産業教育フェア等を利用し、地域の方とのイベントに参加するように促す。		B			